

多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場
試験運用結果について

令和2年4月

環境部環境政策課

目 次

1. はじめに	1
2. ドッグラン試験運用について	
(1) 試験運用の概要	1
(2) 各種調査について	3
(3) 今後の方向性について	4
3. 駐車場試験運用について	
(1) 試験運用の概要	5
(2) 各種調査について	7
(3) 今後の方向性について	8

1. はじめに

市では、平成26年8月に狛江市多摩川利活用基本計画を策定し、多摩川を活用したまちづくりを進めてきた。

本報告は、多摩川利活用の一環として平成29年春からおよそ1年間実施した多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場の試験運用について、今後の方向性を示すものである。

2. ドッグラン試験運用について

(1) 試験運用の概要

① 試験運用の目的

多摩川河川敷ドッグランは、にぎわいと楽しさのある多摩川を創出するため、人と人、人と犬が互いに気持ちよく、楽しく過ごせる空間の創出を目的としてどのような課題や需要があるか調査・検証を行うため一定期間、試験運用により実施し、その結果を踏まえ、正式設置の可否を判断した。

② 設置における効果

市内で唯一広大な敷地を有する多摩川河川敷にドッグランを設置することで期待される効果として以下のものが見込まれた。

ア. コミュニティの場の形成

市民の憩いの場である多摩川河川敷に、人と人、人と犬が互いに気持ちよく楽しく利用できるレクリエーション空間をつくることにより、多摩川を活かしたより一層の住民間コミュニティの形成が推進される。

イ. 河川敷の安全性及び快適性の向上

多摩川は、犬の散歩場所としての利用が多く、それに比例してノーリードでの散歩など、犬をめぐる苦情やトラブルも通常の公園等に比べて多く発生している。

ドッグランを設置することにより、一般の利用者との棲み分けが図られ、ノーリードでの散歩による事故などの危険を防止し、糞の放置がなくなるなど、一般の利用者と飼い主がお互い快適に利用できるようになり、多摩川の利活用が一層推進される。

ウ. 飼い主マナーの向上

ドッグランは、単に愛犬家が自分のペットを放し飼いするだけの場ではなく、公共空間としてお互いに基本的なマナーを守り、意識しあうことにより初めて、安心して過ごせる空間となる。

ドッグランを飼い主のマナー教室やしつけ教室などに活用することにより、飼い主のマナー向上の機会となる。

エ. 新たな魅力の創出

多摩川河川敷において、ドッグランがあるのは狛江市だけであることや、小田急線電車内や多摩水道橋等からドッグランが一望できることから、市外に対しても狛江市ならではの魅力としてアピールできる。

③ 試験運用の概要

ア. 試験運用概要

試験運用場所	小田急線高架脇
面積	およそ 900 m ²
エリア区分方法	小型犬用およそ 450 m ² フリー用およそ 450 m ²
開園時間	午前 8 時～午後 6 時（4 月～10 月） 午前 8 時～午後 5 時（11 月～3 月）
利用料金	無料
利用規約	参考資料（1）多摩川河川敷におけるドッグラン試験運用について（中間報告）P9 参照
利用登録	なし（畜犬登録・予防接種は必須）
運営形態	市直営（施設及び清掃業務委託は有り）
整備内容	仮設用フェンス（外周部・エリア区分・出入口）、 犬用トイレ、利用案内看板、小型倉庫、水用タンク
期間	平成 29 年 5 月 27 日から平成 30 年 5 月 31 日まで （試験運用満了後も暫定運用を行っていたが、台風の影響により、令和元年 9 月 8 日に施設を撤去した。）

イ. 設置箇所図



ウ. 状況写真



(2) 各種調査について

ドッグラン試験運用実施に伴い、利用状況、利用者等からの意見を把握するため以下の調査を実施した。

① 利用状況数調査

ドッグランの利用者数がどの程度なのか把握するため、毎月平日、土日及び祝日の任意の1日で利用者数を調査した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

② 利用者アンケート

ドッグランの課題や需要にどのようなものがあるか把握するため、利用者に対し属性や利用頻度、運営方法についてアンケートを実施した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

③ 現地ヒアリング

アンケート調査だけでは見えにくい現地の利用状況や利用者の声を把握するため、職員による現地ヒアリングを実施した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

④ 市民アンケート(無作為抽出)

施設利用者のみならずアンケート調査を行うだけでなく、より広く市民から意見を聞くため無作為抽出による市民アンケートを実施した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

⑤ 多摩川利活用推進フォーラム

ドッグラン及び駐車場を含めた多摩川利活用推進の今後の取組について広く意見を聴くことを目的として実施した。(詳細は、多摩川利活用推進フォーラム開催報告を参照)

(3) 今後の方向性について

ドッグランの利用者数は、前原公園などの人気のある公園施設には及ばないものの、その他の公園施設の様子と比べれば、常に30人程度の利用者がある状況は低い値ではない。

当初設置の効果と期待していたコミュニティの形成については、利用者へのヒアリング等から愛犬家同士のコミュニティが形成されていることが伺える。また、新たな魅力の創出については、市外からの利用者も多くいることが利用状況調査よりわかっており、狛江市ならではの魅力として来訪に繋がっていることが伺える。今後ドッグランを飼い主のマナー教室やしつけ教室などに活用することにより、飼い主のマナー向上の機会となることも期待できる。以上のことから公園施設の多様化の一つとしてドッグランがあることは価値があると考えられる。

一方で、夏季には利用者数が減少するほか、台風の際には撤去を行う必要があり、夏から秋にかけて運用することの費用対効果は悪い。

また、ドッグラン利用者以外の市民の意向では、ドッグランは一部の人の施設であるという指摘があることや、多摩川利活用で期待することとして休憩施設の設置やイベント活用の期待が非常に多くみられた。フォーラムにおいても、多目的な河川敷活用の提案が多く見られたことから、河川敷は多くのニーズに応える汎用性を有しており、ドッグランのみに利用することは効果としては限定的になる。

ドッグランは、試験運用終了後も暫定運用を続けていたが、令和元年台風第15号の接近に伴い、令和元年9月8日に施設撤去を行い、その後、令和元年台風第19号の影響により、多摩川河川敷内に土砂が流入し、地面が凹凸化してしまった。凹凸化した地面の復旧には多額の費用がかかるうえ、今回のような台風が再度発生し同程度の被害を受けるリスクが常に存在するため、試験運用を行ってきたスペースに復旧することは難しいと考えられる。

以上のことから、近隣住民等の意見にも留意しながら、別の場所でのドッグランの設置について検証を行う必要がある。台風が発生する6～10月の出水期における運営体制を含めた具体的な整備内容については、周辺まちづくりの状況も踏まえつつ、検討をしていく。

3. 駐車場試験運用について

(1) 試験運用の概要

① 試験運用の目的

多摩川河川敷駐車場は、今後の多摩川利活用の推進に伴って、一定のルールのもとで駐車が可能となる仕組みが必要となることを見据え、どのような課題や需要があるか調査・検証を行う必要があることから、一定期間の試験運用として実施した。

② 設置における効果

多摩川河川敷内に駐車場を設置することで利用者の利便性の向上が期待され、この利便性の向上によって以下の効果が見込まれた。

ア. 河川敷利用者の増加

多摩川利活用基本計画の策定時に行ったアンケート調査では、多摩川河川敷を利用する最も多い理由は「散歩」である一方で、多摩川河川敷を利用しない理由は「自宅から離れている」が最も多かった。駐車場を設置することで、多摩川河川敷を多摩川から離れた人にとっても利用しやすいものになり、より多くの市民が多摩川を親しむことができるようになる。

イ. グランド等の施設利用者の利便性向上

現在、市が認めた一定の規模を有したイベント等以外での河川敷への自動車の進入及び駐車は認められていない。駐車場を設置することでグランド等の施設利用者が平時(土日祝日)においても自動車でアクセスできるようになり、より一層の施設利用が促進する。

ウ. 民間事業者等の活用の向上

現在、民間事業者が青空ヨガやスポーツ教室等の多種多様な取組を推進している。駐車場を設置することにより市内外の民間事業者の新たな河川敷活用の機会が増え、多摩川河川敷を活用した魅力とにぎわいの創出に繋がる。

③ 試験運用の概要

ア. 試験運用概要

試験運用場所	小田急線高架脇
駐車台数	15 台及びバイクスペース
開設時間	平成 29 年 4 月 29 日から平成 29 年 6 月 10 日まで 午前 8 時 30 分から午後 3 時 30 分まで(グラウンド利用者のみ) 平成 29 年 6 月 17 日から 午前 8 時 30 分から午後 6 時 30 分まで
利用料金	無料
利用規約	参考資料 (2) 多摩川河川敷における駐車場試験運用について (中間報告) P7 参照
運営形態	委託による管理
整備内容	整地及び区画線、看板の設置
期間	平成 29 年 4 月 29 日から平成 30 年 5 月 27 日まで (4 月 29 日から 6 月 10 日まではグラウンド利用者のみ)

イ. 設置箇所図



ウ. 状況写真



(2) 各種調査について

駐車場試験運用実施に伴い、利用状況、利用者等からの意見を把握するため以下の調査を実施した。

① 利用状況数調査

駐車場の利用台数がどの程度なのか把握するため、開放日に誘導員が利用者数を調査する利用台数調査を実施した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

② 利用者アンケート

駐車場の課題や需要にどのようなものがあるか把握するため、利用者に対し属性や利用頻度、利用目的についてアンケートを実施した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

③ 市民団体ヒアリング調査

より具体的な意見・要望・反響を聞くため、多摩川河川敷をよく利用する市民団体等(多摩川河川敷利用団体、観光協会)にヒアリング調査を実施した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

④ 市民アンケート(無作為抽出)

施設利用者のみアンケート調査を行うだけでなく、より広く市民から意見を聞くため無作為抽出による市民アンケートを実施した。(詳細は、多摩川河川敷におけるドッグラン及び駐車場試験運用について(第二次中間報告)を参照)

⑤ 多摩川利活用推進フォーラム

ドッグラン及び駐車場を含めた多摩川利活用推進の今後の取組みについて広く意見を聴くことを目的として実施した。(詳細は、多摩川利活用推進フォーラム開催報告を参照)

(3) 今後の方向性について

駐車場の利用者数は、徐々に増加をしてきて期間後半である12月から5月までの1日あたりの平均利用台数は23台となっているが、1日あたりのランニングコストがおおよそ52,600円かかっている。例えば、駐車場の運営費を利用者に負担していただく形とした場合、1台あたり2,300円を徴収しなければならないことがわかる。この結果から必要な運営コストに対し、適正な利用者数に達しておらず、試験運用期間の費用対効果は芳しくない。さらに、河川敷周辺には試験運用中にも新たに民間の駐車場がオープンするなど、民間によって多摩川周辺の駐車場の供給は満たされていると捉えることができる。また、当初見込んでいた河川敷の利用者増については、アンケート調査からあまり繋がっていないことが伺える。

また、ドッグランと同様に、凹凸化した地面の復旧には多額の費用がかかるうえ、今回のような台風が再度発生し同程度の被害を受けるリスクが常に存在している。

以上のことから駐車場については、現状においては一般利用者に開放する駐車場の方式で実施することは困難であるため、本格実施はしないものとする。

なお、野球大会などのイベント実施において、駐車が必要な場合には従来どおりイベントの規模や希望駐車場所等を考慮しその時々で検討するものとする。

また、今後の多摩川利活用の状況の進捗によっては、駐車場の必要性が高まることも想定できるため、その際には改めて検討を行うこととする。